

# 東高

# 国際だより

平成29年12月19日  
京都府立東舞鶴高等学校  
国際教育部発行  
2017 vol.8

## 2年国際文化コース 台湾研修旅行

2年生国際文化コースの生徒は、12月3日(月)～12月7日(木)まで研修旅行で台湾に行きました。現地の高校や大学を訪問し交流を行ったり、街頭インタビューを行ったり、充実した4泊5日間の行程を終えることができました。



忠烈祠の衛兵交代を見学しました！



故宮博物館を見学しました！



台南料理です！



西門町でインタビュー活動中です！



陽明高級中学との交流



千と千尋の神隠しで有名な九份を観光

## 3年国際文化コース 華道・茶道体験

11月8日(水)、15日(水)の「日本文化」の授業で、3年生国際文化コースの生徒が華道・茶道体験をしました。



茶道体験



華道体験

### ～生徒の感想より～

着物を着て茶道をするという体験は初めてだったので、より日本文化を体験した気分になりました。

物を大事にするという茶道の精神を大切に品の大人になりたいと思いました。

茶道の先生は言葉遣いもきれいでした。単に「良い」というのではなく、どの部分が良いかをきちんと言われているところが素敵だなと思いました。

芦田美羽さん(青葉中出身)

## 2年国際文化コース 中国語講座

11月16日(木)、2年生国際文化コースの生徒を対象に、中国語講座が行われました。研修旅行がより充実したものになるよう、舞鶴市国際交流員の李芳先生をお招きして、中国の文化や言葉について学びました。



自分の名前を中国語読みしてみると、新鮮な響きです。



「一閃一閃亮晶晶」(きらきらぼし)を中国語で歌いました。

## 夏季休業中留学体験報告 No. 3

今回は、オーストラリアのアデレードへ留学した竹之内倅乃さん(青葉中出身)の留学体験を報告します。

- 1. どのような研修でしたか。**  
オーストラリアのアデレードに17日間行ってきました。Unley High Schoolという中高一貫の学校に通いました。
- 2. どのようにして留学の準備をしましたか。**  
留学前にノートに日常的な英会話などを書いてまとめたり、留学された先輩などに話を聞いて留学の準備をしました。
- 3. 最も印象に残ったことは何ですか。**  
日本とは校則や文化が違うところがたくさんあったことです。
- 4. 今後がんばりたいことは何ですか。**  
今回の経験を活かして、また外国の方と交流する機会があったら積極的に自分から話題を振るなどしてコミュニケーション能力を高めていきたいです。
- 5. 東高生に伝えたいこと**  
留学をして、英語に対する意識も変わったし、とても良い時間が過ごせました。少しでも留学に興味があればぜひ応募してみてください。



ホストファミリーに折り紙を教えました。

語学だけではなくてスポーツ、芸術などを学ぶ留学もできます！

## 「トビタテ! 留学 JAPAN」

### 校内説明会のお知らせ



東校から3年連続で合格者を出している文部科学省等が補助をしている留学制度です。応募希望者対象に、説明会を開きます。応募するかどうかを決めかねている人も大歓迎です。ぜひ話を聞きに来てください！

**日時: 12月19日(火) 13時～**

**場所: 国際教室**

※参加を希望する場合は、事前に申し込みをしてください。(国際教育部・野田まで)

※質問があればいつでも来てくださいね!



「国際だより」は上のQRコードからもアクセスできます。

## Namaste ～ネパールからの手紙～

昨年度から、青年海外協力隊員としてネパールでボランティア活動をされている英語科吉積勇人先生からのメッセージをお届けします。

みなさんナマステ。

2学期後半に差し掛かり、2017年も終わろうとしていますね。

ネパールでは20年ぶりの県選挙で爆弾騒ぎや学校、オフィス閉鎖等が続いており、なかなか落ち着きません。

先日私はネパールのドラカという地域に行ってきました。2年前の地震の震源になった場所なのですが、衝撃の光景が広がっていました。地震の爪痕がさぞかし残っているのだらうと思っていたのですが、建物はすべて新築で、道路も舗装道路が至る所に整備されていました。なぜ衝撃かという、私が生活している村は支援が行き届いておらず、仮設で生活をしている人たちがまだ多くいます。政府からの補助金20万円も、未だに5万円しか出ていないという状況も珍しくありません。にも関わらず、震源地域は優先的に支援が行き届いている現状を目の当たりにして驚きました。

現在私の配属校も修復工事がやっと始まったのですが、問題は工事中の授業です。工事中は教室の数が足りないため、「1、2年生を同じ教室で教えてくれ」と校長から言われました。彼らの感覚では小さい子供達の学習は対して変わらないと思っているようで、高学年を優先的に設備の整った教室で教えたいという結論に至りました。現在ネパールは乾季で雨の心配はないのですが、日本では考えられない提案に驚きを隠せませんでした。トタンやビニールシートで囲まれているので、純粋な意味での青空教室ではないのですが、土埃や工事の騒音の中なんとかして授業を実施しています。

日本とは異なり、自然災害の対応に慣れていないネパールならではの現状が、地震騒動から2年経った今でも散見されます。支援が受けられず、不自由を強いられる生活を坦々とこなすネパール人達には本当に驚かされます。写真は私のセミ青空教室の様子です。

